

なぜぼくらは「イスラム国」と向き合うのか？ フォトジャーナリスト×人道支援

川畑嘉文×景平義文スペシャルゲスト

(国際NGO 難民を助ける会 AAR JAPAN シリア難民支援事業担当)

日時: 2015年3月3日(火)

19時00分～(開場: 18時30分) ※講演会終了後、サイン会を実施いたします。

場所: 八重洲ブックセンター本店 8階ギャラリー

長引くシリアの内戦で難民の流出が止まらない。
彼らはどのような苦悩を抱えながら生きているのか？
それを伝えるのがフォトジャーナリストの使命である。
一方、そういった人々に直に触れ心を通わせる活動をするのが人道支援である。
「イスラム国」の脅威により、ジャーナリストや支援団体の活動を抑制するべきという意見も出てきたが、
それでも、現場に行く意味とは？



川畑嘉文(かわばた よしふみ)

1976年生まれ、千葉県出身。アメリカペンシルバニア州立大学卒業。専攻は国際政治。ニューヨークの出版社、東京の撮影事務所勤務を経てフリーのフォトジャーナリストとなり世界各地を訪問。雑誌などに写真と原稿を寄稿。写真展「ハイチから、明日へ。ハイチ大地震の記録」は東京、神戸、福岡、広島で展開。2011年、「地雷原の女性たち」がJRPリアリズム写真集団主宰コンテスト「視点」に入選。2014年、五枚組写真「シリア難民の子どもたち」がJPS日本写真家協会主宰コンテストで金賞を受賞。

対談者 景平義文(かげひら よしふみ)

国際NGO・AAR Japan[難民を助ける会]シリア難民支援事業担当

1976年、大阪府生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。博士(人間科学)。専門は教育開発。アフガニスタンなど紛争下および紛争後地域の教育を研究。博士課程修了後、NGOの駐在員としてケニアに2年半駐在し、2012年9月より現職。トルコで避難生活を送るシリア難民の支援を担当している。トルコと日本を往復し、2013年は一年の半分をトルコで過ごした。著書に、『ケニアの教育と開発-アフリカ教育研究のダイナミズム-』(分担執筆、明石書店)等。

参加費: 無料

参加定員: 80名(申し込み先着順)※定員になり次第、締め切らせていただきます。

申込方法: 1階カウンターにてお申し込みください。

お電話によるお申し込みも承ります。(TEL 03-3281-8201)

※お預かりした個人情報(氏名・電話番号)は、お申し込みいただいた講演が中止、もしくは日時が変更になった場合のみ使用いたします。

主催: 八重洲ブックセンター

協賛: 新評論

特別協力: 特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR JAPAN)



参加
方法